



社会福祉協議会 ボランティア清掃



上県町佐須奈で、3月15日、社会福祉協議会上県支所主催による空き缶清掃が行われ、社会福祉協議会職員や民生児童委員、ボランティアなど含めて約40名が集まりました。今回で3回目となるこの空き缶清掃事業は毎年3月に行われてお

り、赤い羽根共同募金配分金事業の一環で清掃活動を通して地域の環境美化に対する意識や関心を高めることを目的に実施されています。

清掃区間は、佐須奈のどろ坂付近から仁田地区にかけての国道沿いで、この日は2tトラック2台分と軽トラック1台分のゴミが集められました。社会福祉協議会上県支所は、少しでも対馬市民に、環境美化に対する意識を高めてもらえる様、今後もこの活動を続けていきたいと語りました。



五根緒トンネル 貫通式



一環で、五根緒地区から舟志を結ぶ道路を整備するために進められており、工事区間全体の長さは2920mで、このうち930mは現在供用されています。

今回貫通したトンネルは、平成20年9月29日に着工され、平成21年11月2日完成予定です。車道幅員5・5m、全長144mとなっており、供用開始は平成24年度末が予定されています。この工事が完了すると、距離は941m、時間にして約3分が短縮されます。

五根緒地区の住民は、この道路が開通すると、通勤・通学が便利になり、道も良くなるため、開通を心待ちにしていると話していました。

上対馬高校入学式

4月8日、島内の高校で一斉に入学式が行われ、今年には島内3校あわせて301名が高校生の仲間入りを行いました。長崎県立上対馬高等学校では、男子30

名と女子21名、合わせて51名が門をくぐりました。

入学式は、ブラスバンド部の演奏と、在校生らによる拍手に出迎えられスタートし、式辞では、富永享校長が「自分でつとめ励む自強、自分の力でわがまをおさえる自律、自分自身を観察し反省する自称。その3つの柱を忘れず頑張ってください」との言葉を述べました。

真新しい制服、新しい友人との出会い、そして希望や決意を胸に、新入生51名の、新たな学校生活がスタートしました。



ウニ漁最盛期

峰町の佐賀地区で、4月9日からウニ漁が始まりました。毎年、対馬島内では、干潮の3月下旬から5月上旬にかけてウニ漁が開始され、佐賀地区は、昨年より2週間遅い口あけとなりました。

峰町の新井勝則さんもウニ漁を終え、自宅の作業場でウニを割る作業が行われていました。普段はさざえやアワビ漁をしている新井さんは、ウニ漁で忙しくなるこの時期、母の邦子さんのウニ割りの作業を手伝っています。



位之端出張所と荷捌き所落成式

この日、邦子さんは5時間ほどかけて、テボ2杯の紫ウニを獲りました。今年のウニは、昨年に比べ小さく身が少ないが、例年並みの水揚げだと漁業関係者は話していました。

丁寧に身を取り出し、瓶に詰められたウニは、直売される他に、島外に住む家族に送られるということでした。



3月29日、豊玉町漁協位之端出張所と荷捌き所落成式が、漁協関係者をはじめ、県や市の担当者ら、およそ50人が出席し行われました。

この日は、大漁や航海の安全を祈願する金毘羅祭りに合わせて開催されたため、位之端地区に所属するおよそ30隻の漁船は大漁旗を掲げ、落成式に花を添えていました。また、地元の小学生らによる「ソーラン節」の披露や、もちまきもあり地区をあげて新しい施設の完成を祝いました。

漁協は、燃油高騰や魚価低迷など厳しい状況ではあるが、新しい出張所が、地域の情報センターとしての役割を担い、荷捌き所の完成によって、組合員の所得向上につながることを期待したいと話していました。



恵比須大明神祭と港まつり



豊玉町の千尋藻地区で、4月8日、恵比須大明神祭と港まつりが行われ、千尋藻地区漁船団に所属する漁師や千尋藻地区の住民など約100名が公民館に集まり、来賓祝辞や演芸の披露などが行われました。恵比須大明神祭と港まつりは、千尋藻地区漁船団に所属する漁船の、航海の安全と大漁を願うため、毎年行われています。

大漁旗を掲げた約50隻の船団は、沖合で、漁業の神・水難除けの神として、日本

で古代から信仰されてきた恵比須様に祈りを捧げました。昨年と一昨年は、悪天候のため中止されたこの漁船パレードですが、今年は天候に恵まれ、無事開催されました。漁船パレードを楽しみにしていた、千尋藻地区の住民達、そして、パレードに参加する漁船に乗船した乙宮小学校の5・6年生の児童たちは、普段見ることのできない、約50隻の漁船が列を組んで走行する姿に圧倒されていました。

公民館に集まった人々は、今年の漁業の成功を願い、恵比須様に向かい、再度祈りを捧げました。



美津島町女護島に 「ふじ丸」入港

4月3日、美津島町女護島に豪華客船「ふじ丸」が入港しました。

ふじ丸は、総トン数2万3千2百35トン、全長167メートル、幅24メートル、船客定員は、163室600名に及ぶ日本初の大型豪華客船です。

徳島県小松島港から対馬



を経由後、韓国釜山へ向かい、再び小松島港へ戻る3泊4日のクルーズです。

ふじ丸船内で行われた歓迎セレモニーでは、乗船客の代表者へ花束や記念品が贈られ、齊藤勝行副市長が

「国境の島対馬を楽しんでください」と挨拶しました。

この他、対馬の歴史観光セミナーが行われ、乗船客は、テンダーボートで対馬へ上陸して、万松院や和都美神社など対馬の名所巡りを楽しみ、この日の夕方の目的、韓国釜山へ向かいました。

ジェットフォイルが 2便に増便

燃油価格の高騰や利用客の減少などが原因で、平成20年11月5日から1便体制の運航となっていたジェットフォイルが、平成21年4月1日から増便し、厳原港発着の2便体制となりました。2便体制に戻り、初めての運航となったこの日は、55人が午前7時55分発の博多行きジェットフォイルを利用しました。

利用者の中には、島内外からの転校や転勤、また対馬への里帰りを終え島外へ帰省する人などもあり、利用者以外にも見送りに来た人々で港が賑わいました。



厳原交番開所式



浦交番を現在地に新築移転したもので、この移転に伴い、名称も新ためられることとなりました。一階の外観は石づくりになっており、会議室や相談室など旧小浦交番に比べゆとりのある設計がなされています。

厳原町の繁華街に建てられたこの厳原交番は、今後地域安全を見守る為の拠点として活用されます。

地域安全を守るべく、厳原町今屋敷に、厳原交番が完成しました。4月2日、交番の完成を祝い開所式が行われ、対馬南警察署の関係者や地区住民らが出席しました。

式では、対馬南警察署石見屋力署長が「今後の地域の安全センターとして皆さんの期待に答える為、努めていきたい」と話しました。

厳原交番は、旧小





伝承される豆酛の赤米神事

にほんの里100選に「厳原町豆酛」が

朝日新聞社と(財)森林文化協会が人々の暮らしによって育まれたすこやかで美しい里を選ぶ「にほんの里100選」に厳原町豆酛が選ばれました。暮らしが生み出した特色ある「景観」、かつて里でよく見かけた動植物が今もすこやかに生息し、生育・生息環境の再生を試みる「生物多様性」、景観や生き物を支え、里のめぐみを生かす暮らしを営み、そうした暮らしを築き持続させようとする人々の「人の営み」を基準に選定され、全国から4,474件の応募がありました。

豆酛地区は、海土による潜水漁や赤米栽培、神事の伝承など古くから伝わる文化を残し、里山を利用した養蜜、在来種ソバの栽培も盛んな地区で、暮らしによって育まれてきたぬくもりを漂わせる地域全体の雰囲気良さが評価されました。

島の宝100景に「鰐浦地区のヒトツバタゴ」などが

国土交通省が4月10日、島の暮らしや人々の営みがわかり『島の宝』として、次世代に引き継ぎたい島の景観として「島の宝100景」を選定しました。全国一般の人から計547件の応募があり対馬の「ツシマミツバチ・蜂洞」と「鰐浦地区のヒトツバタゴ」が選ばれました。

同省が全国26都道府県にある96離島の自然や生活の風景を、観光PRにつなげてもらいたいと企画されたもので、選定された100景については、認定証が発行されます。



広報
つしま版

対馬市福岡事務所 レポート

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目12-26福岡Dビル11F
TEL/092-481-6411

ブログ/『対馬市福岡事務所レポート』 <http://tsjfuk.exblog.jp/>
スタッフ/武末祥人・阿比留忠明・早田優子



〈お知らせ〉

6月号より、福岡事務所のスタッフが福岡で触れた対馬の素敵なものや人などを紹介する「スタッフおすすめ！福岡で見つけた対馬のいいもの」という連載をスタートします。取材して欲しい人や場所などありましたら、お知らせください。みなさまからの情報をお待ちしています。

■この春、対馬市福岡事務所がオープン！

2009年4月10日、福岡市博多区博多駅前に対馬市福岡事務所がオープンしました。メンバーは、武末祥人、阿比留忠明、早田優子の3名で、福岡をはじめとする北部九州圏域を対象に、対馬の観光・物産のPRや企業誘致、情報収集などを行ってまいります。

現在(4月中旬時点)の主な業務は、福岡のメディア、旅行、流通などの企業との情報交換や広報活動です。また、秋からの本格稼働に向けて、福岡事務所の事業コンセプトや計画を練っているところです。リアルタイムの状況については、ブログ「対馬市福岡事務所レポート」をどうぞご覧ください。

■スタッフの紹介

○武末祥人たけすえよし所長(写真中央)

1960年4月26日生まれ。豊小学校、豊中学校、上対馬高校卒業。1979年より旧上対馬町役場に勤務。教育委員会、税務、観光、行財政改革などの業務を経て現職。初めての島外暮らし！(カルチャーショック多々あり)。この春、大学に入学した娘と二人暮らし。家では朝食担当。早く帰宅した日は、二人で夕食を作る。休日は、娘と二人、自転車で近所を探索している。

○阿比留忠明あびるただあき

1966年5月18日生まれ。浦浜小学校、鴨居瀬中学校、佐世保高専を経て長崎ウエスレヤン短期大学卒業。ハワイで1年間の留学経験あり。1991年より旧美津島町役場に勤務。有線テレビ、税務、環境衛生などの業務を経て現職。初めての福岡暮らし、初めての単身赴任生活。フライパンひとつでどこまでやれるか奮闘中。

○早田優子そうだゆうこ

1974年8月12日生まれ。厳原小学校、厳原中学校、対馬高校、兵庫教育大学卒業。印刷会社、出版社、編集プロダクションで、編集者・ライターとして経験を積んだ後、フリーランス。2008年4月にWEBサイト『対馬の樹』を開設し、7月に「対馬市応援団」のメンバーに認定される(現在は休止中)。ブログ「対馬市福岡事務所レポート」担当。実家は美津島町尾崎にあり、たまに帰って美味しいものを食べたり飲んだり、海や山で遊ぶ。

アンケート結果

フェリーの高速化、運航時間の変更を

ジェットfoil減便に関する、上対馬町での説明会の折りに、北部対馬航路の改善を求める多くの意見が出されました。このような意見を正確に把握し、航路運航事業者に改善を求めていくために、上対馬町、上県町の市民の皆さんにご協力いただき、「北部対馬航路に関するアンケート調査」を実施し、その集計結果がまとまりましたので、お知らせします。今回の結果を踏まえて、北部対馬航路の改善に向け、対馬市航路対策協議会に諮り、航路運航事業者との協議を進めていくこととしています。

※アンケート結果は、広報誌の紙面上、特に市民の皆さんにお知らせしたい項目を掲載しています。

また、全アンケートの集計結果は、6月中に対馬市ホームページでの公表及び市役所地域再生推進本部、各地域活性化センター窓口で閲覧ができます。

回答数は、1,546件、回収率は42.8%(上対馬町、上県町の全世帯3,614件に配布)

■平成20年1月～12月までの本土への旅行について

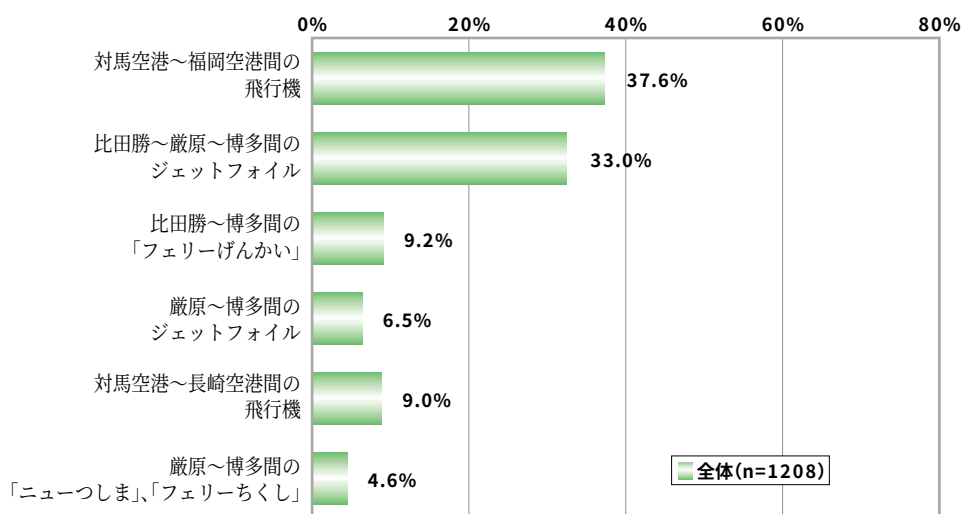
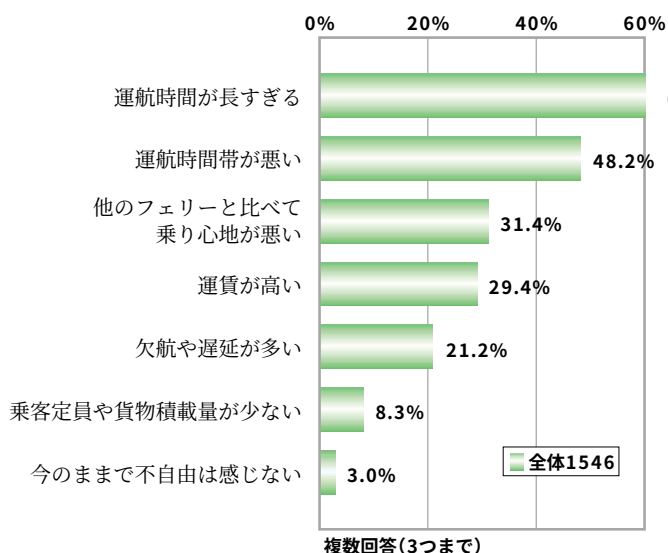


図 一番多く利用した交通手段

■「フェリーげんかい」について

- 現状(問題点)として、『運航時間が長すぎる』『運航時間帯が悪い』が5割を越えて多く、運賃に対する問題意識は比較的低い。
- 利用したい運航時間帯については、博多発は22～23時台と現在の運航時刻と変わらないが、比田勝発は13時発、8時発のニーズが高く、現在の15時台発よりも、早い出航時間が望まれている。

○ フェリーげんかいの現状について思うこと



○ 現在のフェリー航路の改善について要望したいこと

